

氏名	美甘 祥子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	博士（看護学）
学位授与番号	博甲第5178号
学位授与の日付	平成27年 3月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文の題目	Non-Invasive Prenatal Testing (NIPT) を希望する日本人妊婦の意思決定に影響する要因についての調査 (NIPT を受けることへの日本人妊婦の知識と意識)
論文審査委員	白井 喜代子 教授、小田 慈 教授、芳我 ちより 准教授

### 学位論文内容の要旨

【目的】妊婦がNon-Invasive Prenatal Test (NIPT) に関してどのような知識や意識を持っているかを明らかにする。

【方法】2013年3～6月に、妊婦760名に無記名自記式質問紙調査を施行し、591部回収し（回収率77.8%）、557部を分析した（有効回答率73.3%）。

【結果】日本でのNIPTの実施に「賛成・条件付きで賛成」は91.9%であった。NIPTの知識で知っていた割合は「NIPTで陽性と判定された場合の検査結果の精度は、母親の年齢や背景によって異なる」28.5%、「NIPTで陽性と判定された場合は、羊水検査により、本当に胎児異常があるかどうかを診断する必要がある」34.5%と低率であった。NIPTの結果が陽性であった場合に「サポートを希望する」は84.9%であった。

【考察】NIPTの導入に賛成の妊婦は高率であったが、知識は十分ではなかった。NIPTを受けてから、その結果の重大性に気づくことがないように情報提供を十分に行う必要がある。

Acta Medica Okayama（掲載予定）

キーワード：NIPT, 羊水検査, 出生前診断, ダウン症候群, 心理的サポート

### 論文審査結果の要旨

2013年4月から非侵襲的な検査であるNon-Invasive Prenatal Testing (NIPT)が開始された。妊婦がNIPTに関してどのような知識や意識を持っているかを明らかにする為に、2013年3～6月、妊婦760名を対象に無記名自記式質問紙調査を実施し557部を分析した。NIPT導入に賛成の妊婦は高率であったが知識は十分でなく、検査結果の受け止め方も不適切な例があることを明らかにした。本研究は、博士後期課程としての論文に達していると考えられる。